

新種の豚インフルエンザウイルス

2009年4月28日、厚生労働省はWHOがメキシコで発生した豚インフルエンザウイルス感染がPhase4（人から人へ感染する段階）になったと発表したことを受けて、このインフルエンザウイルスが新型ウイルスであることを発表いたしました。

現段階で我々は

- ◆正確な情報を基にした行動をとるべきこと。
 - ◆現段階では基本的な注意を守ることが最も効果的な予防策（手洗い、うがい、人ごみに出る際にはマスクをするなど）であること。
- などを再度確認し、過度の不安を煽るような行動はしないよう冷静に対応する必要があります。

現時点までに分かっていることを厚生労働省のホームページ記事から拾ってみますので、参考にしてください。

①豚インフルエンザウイルスについて

豚にもA型インフルエンザウイルス感染による呼吸器疾患が存在しており、H1N1亜型、H1N2亜型、H3N2亜型、H3N1亜型が知られています。

- 今回問題になっているものは、このうちのH1N1亜型ウイルスになります。

②豚インフルエンザの感染性について

今回の豚H1N1型ウイルスは1930年に発見されており、その後も豚の間では定期的に大流行していましたが致死率は低く、また人にはほとんど感染せず、感染したとしても感染者は養豚場の職人など濃厚な豚との接触があった人に限定されていました。そして、人から人へも感染していませんでした。

- 豚ウイルスも絶えず変異を繰り返しており、今回発見された変異株は豚から人に感染しやすくなり、さらに人から人へも感染しやすい型に変化したようです（WHOがPhase4に格上げた部分）。

③病原性について

本来の豚H1N1型ウイルスの性質からみるといわゆる高病原性ではない致死率の低い病原性ウイルスと考えられます。しかし、人に感染しやすい変化を遂げると共に人に高病原性をもたらすような変化を遂げないとは断言できません。メキシコでは100名を越える死亡例が報告されていますが、アメリカ合衆国など他の国での死亡例は報告されていないので、高病原性鳥インフルエンザウイルスのような高い致死率を有するウイルスではない可能性があります。

- 病原性に関しては今後の情報に耳を傾ける必要があります。

④人のインフルエンザウイルスとの違いについて

現在人のインフルエンザウイルスはA型とB型が定期的に流行しており、A型にはソ連型(H1N1型)と香港型(H3N2型)があります。今回の豚ウイルスの型と人のソ連型はH1N1型で型は一致してはいます。しかし、大きな分類上は同じ仲間ですが蛋白質上の違いがあり抗原性が異なっています。抗原性が異なっているため人は豚のこのウイルスに対して免疫を確保していませんので、何らかのダメージを人に与え、かつ感染は拡がります(厚労省がウイルスを新型ウイルスと認定した部分)。

⑤治療薬について

ワクチン:従来のワクチンは新型ウイルスには効果がありません。新型ウイルスを用いてこれから製造するしかありませんから、半年程度の時間が必要となります。

タミフル:現在のところ感受性を示しており効果が期待できます。人のソ連型(H1N1)では昨年よりタミフル耐性株が発生していますが、豚ウイルスに関するタミフル耐性については記載がありません。

リレンザ:これも従来の豚H1N1型と同様に感受性があれば、効果が期待でき推奨されています。

シンメトレル:A型への適応はありますが、今回の豚H1N1型には耐性があり奨められません。日本では発売されていませんがリマンタジンにも耐性があります。なおシンメトレルはA香港型(H3N2)への耐性が多くなっています。

⑥豚肉は食べても安全か

ウイルスは加熱処理によって死滅するので、適正に調理された豚肉であれば感染豚であっても安全です。具体的な温度でいえば、中心温度71℃での調理となります。

⑦高病原性鳥インフルエンザウイルスとの関連性は？

従来から世界的大流行(パンデミック)を起こすとして心配されていたウイルスは、実は今回の豚インフルエンザウイルスではなく、人での致死率が高い鳥A型インフルエンザウイルスのH5N1型でした。このウイルスはまだ人から人への感染が起こっていないため、大流行を起こすまでには至っていません。

豚は人インフルエンザウイルスや鳥インフルエンザウイルスにも感染すると言われており、豚体内で高病原性鳥インフルエンザの特徴と人から人へ感染できる能力をもつ人インフルエンザの特徴を併せ持った突然変異体が発生すると、今回の豚インフルエンザウイルス以上に警戒が必要になるでしょう。

新型インフルエンザウイルスが発生した場合に我々が冷静に押さえておくべきポイントは、流行性と病原性の二点であろうと思います。

◆新型インフルエンザウイルス発生は、人が抗体を持っていないので大流行する可能性が非常に高いこと

☛確実に起こりうる現象なので、無駄という人もいますが政府がいち早くとる水際作戦は必要。

◆新型インフルエンザウイルスが高病原性であるのか、弱毒性であるのかの見極めること

☛弱毒性であれば、必要以上の警戒、不安は不要。但し、ワクチンや免疫がない状況での感染になるので高齢者や免疫能低下者での死亡率が上昇する可能性は大きい。